

「都市型農業における新たなモデル」構築に向けた研究会（第1回）議事録

1. 日時：令和7年9月18日（木）10：30～11：45
2. 場所：東京農工大学本部 3F 第二会議室 ※ハイブリッド会議
3. 議題：
 1. 座長の選出について
 2. 「都市型農業における新たなモデル」構築に向けた意見交換
 - (1) 東京農業の現状と対応の方向性について
 - (2) 都市型農業のあるべき姿とモデル案について
 3. 次回、研究会開催日程の確認
4. 出席者
 - (委員) 林英徳様（林相談役代理）、原委員、紺野委員、有江委員、新村委員、濱田委員
 - (オブザーバー)
 - 東京都産業労働局：田中局長、榎園農林水産部長、齋藤企画調整担当部長、渋谷農業振興課長、渡辺農林水産施策推進担当課長、三角農林水産部調整課長、植野総務部企画調整課長他
 - Dejima intelligence 株式会社：鈴木監査役他
 - (東京農工大学) 千葉学長、宅間学長特任補佐、阿部研究推進部長
 - 研究産学事業課：谷越課長、榎本副課長、野口係長、小林係員

5. 議事録

【濱田委員】

それでは定刻となりましたので、これから都市型農業における新たなモデル構築に向けた第1回研究会を開催いたします。私、座長が選出されるまでに便宜的に進行を務めさせていただきます Dejima intelligence の濱田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はハイブリッド形式にて会議を実施しております。

資料については事前にメールにて配布させていただいておりますが、ご確認をお願いいたします。対面でご参加の方におかれましては、紙媒体でも資料をご用意しておりますので、乱丁、落丁があります場合には事務局までお申し付けいただければと思います。

それでは初回開催ということもあり、議事に入る前に、本学学長、そして本事業の協定連携先である東京都産業労働局の田中局長様より一言ご挨拶を頂きたいと思っております。

最初に千葉学長からご挨拶をお願いいたします。

【千葉学長】

皆様、おはようございます。東京農工大学学長の千葉でございます。本日は、都市

型農業における新たなモデル構築に向けた研究会の第1回目がいよいよ開催されるということで、大変、ありがたく、また、大きな期待に満ちた日を迎えております。都市型農業という言葉そのものは多分、皆さん色々お聞きになったこともあるでしょうし、イメージもされていると思います。ただ、今、私たちが目指さなければいけないのは、本当に都市に住む人達が安心して暮らせる未来を作れるかどうかということで、幾つかの先端的な技術を導入していくとか、あるいは研究開発をするということでは、とてもとても、その大きな目標は達成できるものではないわけです。東京の人口とそれからその周辺の都市人口は、この関東圏だけでも3500万人以上の人が集中しております。これは別に日本だけではなく、世界各地でこういうような構造ができ始めるというところで、是非とも東京都がその先端的なモデルになって、如何にして日々の暮らしに安心感をもたらせるかというところに挑戦して行こうと思っています。それは単に技術的なイノベーションだけではなくて、社会の理解とか、あるいは東京周辺、そういう人達の支援とかご理解もいただく必要があります。この大きな社会問題、社会課題に挑戦していく核になろうという、大きな核を持って進めるものです。このような機会をいただきました東京都に大変感謝いたしますし、本学もこの事業は、公益性と収益性というその両輪が大事だと思っています。要するに自律的に発展的に物事が進まない、この大目標は達成できません。ということで、みんなにとって有益であり、しかもその事業を拡大するというそのモデルを東京発信で作っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

【濱田委員】

学長ありがとうございます。続いて田中局長、よろしく願いいたします。

【田中局長】

本日はお招きいただきましてありがとうございます。東京都産労働局長の田中でございます。すみません。座ってお話させていただきます。本来はそちらへ伺うべきところでございますけれども、公務の関係で、オンラインの参加となっています。申し訳ございません。この事業は本年7月に締結した協定に基づきまして、本日、第1回の研究会が開催されるという運びになりました。農工大の農業・工業分野の高度な知見と、あと東京の強みである最先端技術を融合するという都市型農業の新しいモデルの検討が始まるということです。大変嬉しく思います。都市での持続可能な高付加価値な農業の実現に向けまして、大変意義深い取組だというふうに認識しています。

この研究会は、都市型農業のあるべき姿やモデル案を専門的な視点から、議論していただく貴重な場だということです。今回始まりましたフィージビリティ調査

では、農産物の生産体制やコスト、ニーズなど様々な観点からの専門的な検討を加えて頂くことになります。都といたしましては、研究会で検討されたモデルが、食料の安全保障や持続可能な都市農業のアップデートにつながることを期待しています。本日はどうぞよろしくお願い致します。

(プレス退席)